

暮らしの中の、細菌・ウイルスと向き合う これからの室内環境づくり

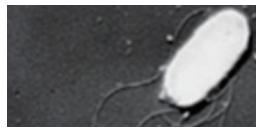
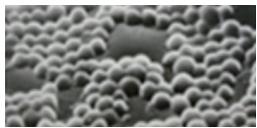
細菌とウイルスの違いを知る

細菌

大きさ 約1~10μm

細菌は細胞を持ち、栄養があり適切な環境の元であれば自分自身で成長、増殖できます。

身近な細菌



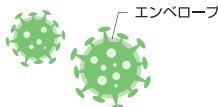
細菌の中には、人が常に保有しているものもあります。悪いものばかりではなく、生きていく上で必要なものもあります。

ウイルス

大きさ 約0.02~0.3μm

ウイルスは細胞を持たないため自ら増えることができず、宿主の細胞がなければ増殖できません。

ウイルスは構造で大きく2つに分類されます



エンベロープウイルス
(脂質二重膜構造を持つもの)



ノンエンベロープウイルス

細菌とウイルスは混同されがちですが、性質は全く異なるため、正しく理解し、それぞれに適した方法で対処が必要です。

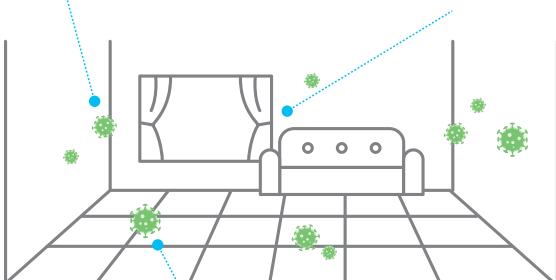
暮らしの中の細菌・ウイルスと向き合う

暮らしの中で、人の出入りや接触、会話や咳・くしゃみによる飛沫の拡散などにより、部屋の中には細菌やウイルスが潜んでいます。

〈細菌やウイルスはお部屋の中にも〉

会話や咳などにより空気中に拡散。

人が触ることで細菌・ウイルスが壁・カーテンなどに付着する。



浮遊した菌やウイルスは床に沈着。歩行により拡散されてしまう。

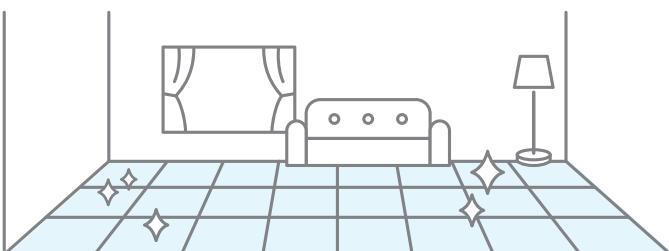
人が細菌やウイルスを室内に持ち込むことがあります。

細菌はどんどん増えてしまうかも。

ウイルスも減らしてしまいたいですよね。

〈お部屋の中を清潔に〉

お部屋の中も換気したり抗菌・抗ウイルス機能を持ったインテリアを活用して清潔に保ちましょう。



抗菌・抗ウイルス機能商品を活用してインテリアを清潔に。

(または室内環境を清潔に)

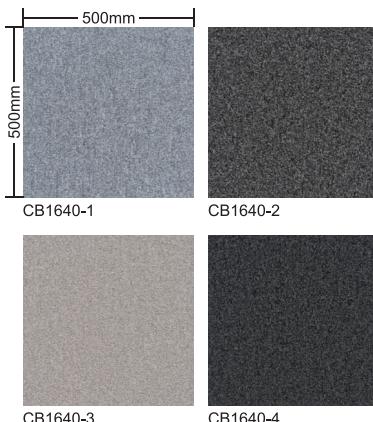
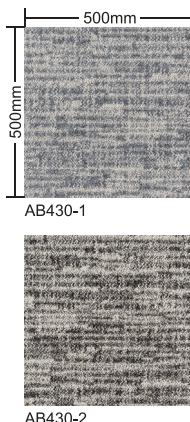
暮らしの中で、インテリアが持つ抗菌・抗ウイルス機能により

商品に付着した細菌・ウイルスの数を減少させることができます。

川島織物セルコンは、様々な商品に適した技術を用いて、機能性・耐久性・持続性に優れた抗菌・抗ウイルス加工商品で、いろいろな空間で安心・安全を保ちます。

抗菌・抗ウイルス加工タイルカーペット

SEKマークの安全性基準に合格した抗菌・抗ウイルス加工剤を使用。繊維上の細菌の増殖を抑制し、特定のウイルスの数を減少させる加工を施しています。3つのSEKマークを取得しています。



SEKマークは、一般社団法人 繊維評価技術協議会が実施する繊維製品についてのマーク認証制度です。抗菌防臭加工・制菌加工・抗ウイルス加工等の機能性と安全性、更には洗濯耐久性に評価基準を設け合格した製品には「SEKマーク」を表示して販売することができます。



〈抗菌防臭加工〉

- 繊維上の細菌の増殖を抑制し、防臭効果を示す加工を施しております。



〈制菌加工〉

- 繊維上の細菌の増殖を抑制する加工を施しております。



〈抗ウイルス加工〉

- 繊維上の特定のウイルスの数を減少させる加工を施しております。

【注意事項】

- 抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。
- 抗ウイルス性試験は、ウイルス株:ATCC VR-1679(エンベロープ有)を25℃で2時間放置して実施しています。
- 抗ウイルス加工は、ウイルスの働きを抑制するものではありません。

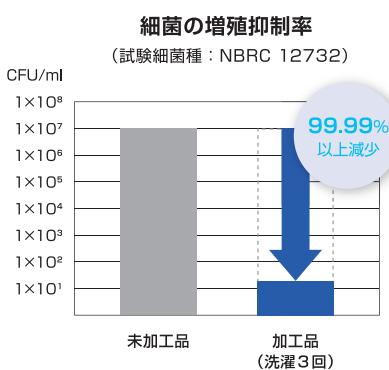
※抗菌・抗ウイルス加工はタイルカーペットの基布部分に施しています。【基布加工】

タイルカーペットは土足歩行が多く、床を美しく保つためには日常の清掃や定期的なメンテナンス等も必要です。

本製品は、こうした事を考慮して、基布部分に抗菌・抗ウイルス加工を行うと共に、パイル部分へは防汚加工(SG加工)を行っています。

時間の経過や歩行により基布部分へ踏み込まれた菌やウイルスへの抗菌・抗ウイルス効果と、防汚機能による美しい床の両立を目指しています。

優れた抗菌・抗ウイルス性能



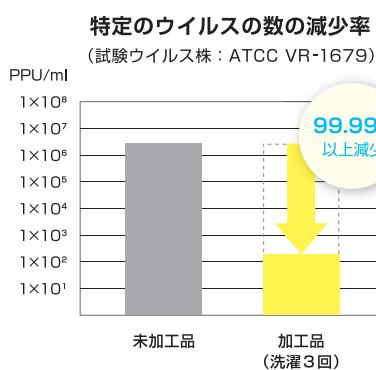
JIS L 1902 菌液吸収法
大和化学工業(株) 評価技術センター

■ 上記試験は、SEKマーク繊維製品認証基準に準じ基布で実施しています。

※各試験データは代表値であり性能を保証するものではありません。

※抗菌・抗ウイルス性能は、全ての細菌・ウイルスに対して発現するものではなく、感染予防を保証するものではありません。

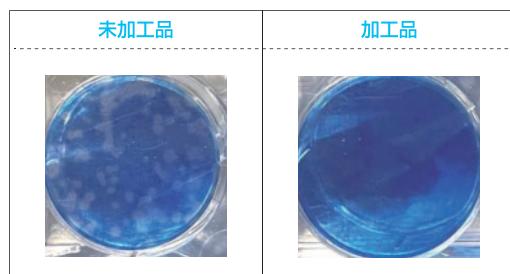
※本製品は医薬品・医療機器などの医療を目的とするものではありません。



JIS L 1922 ブラーカ法
(一財)日本繊維製品品質技術センター

短時間で特定のウイルスの数を減少

未加工品と抗ウイルス加工品にそれぞれ特定のウイルスを接種し25℃で2時間後に特定ウイルスの数を測定した結果99.99%以上減少していたことが確認されました。



※ブラークとは、ウイルスの感染によって生体染色が行えなくなった細胞の部分であり、変性を起こした細胞は色素を保持しないので周囲の変性を受けていない細胞の青色をバックに色素を欠く斑点として見えます。